参考資料３

【おかやまプラン　将来像（案）】

背景・理念

現代はデジタル化が進み、グローバルに人と物がつながることができる時代に入りました。暮らしはよりスピーディで便利になり、多くの物が行きかい、豊かで満たされているようにも感じられます。しかしよく見ると、国内では少子高齢化が進み、担い手不足・事業継承が顕在化し始めています。また、家族やコミュニティのあり方、働き方や暮らしのあり方などにおいても、考え方や価値観が多様化し、変化や新しい動きが出てきています。

一方、自然環境に目を向ければ、夏場の異常な高温の連続や災害の頻発・激甚化など、気候変動・温暖化の進行による日常生活への影響を実感するようになっています。そして、人の暮らしの基盤を支え、当たり前に在ると思われがちな生物多様性や生態系サービスの状態は、私たちが享受している快適な暮らしと引き換えに、持続可能性が危ぶまれる状況となっているのです。

こうした状況からわかるように、現在は時代の転換点にあるといえます。時代が抱える様々な課題とともに新たな価値観や動きも生まれてきているなか、岡山市の自然豊かで安定した社会環境を将来世代にも引き継いでいくために、今、私たちは何をすべきかが問われています。

現状の危機を自分ごととしてとらえ、一人ひとりが生物多様性の保全や資源の正しい利用に向けて、積極的に関わっていくことが大切です。自然や生物多様性は、何もしなくても当たり前にいつまでも在るというものではありません。守り、育てていくことで、はじめて持続的なものになるのです。

人と自然が共生できる社会をつくるために、積極的に自然に目を向け、自然と触れ合うこと、暮らしや事業の在り方を見直し、改善に向けて今、一人ひとりが動き出すことが必要です。

◆プラン全体の将来像

＜具体的なイメージ＞

・　森・里・川・海の連環が維持・強化され、生物多様性の恵みが持続可能な状態で享受できている。

将来像

案１：森、里、川、海、人がつながり、生物多様性の恵みを感じられるまち岡山

案２：森、里、川、海、人のつながりが生まれ、自然と人が共生するまち岡山

◆地域ごとの将来像　※各場所の状態

①　里地里山

＜具体的なイメージ＞

・　「身近な生きものの里」事業に関わる市民や事業者が増え、保全活動が活発化し、生物多様性の保全が進んでいる。
・　「岡山市の重要生態系リスト」掲載地での市民や事業者による保全の取り組みが行われ、生物多様性の保全が進んでいる。
・　岡山市の大切な河川や水路、ため池や水田などの多様な水辺環境が継続的に維持され、希少な淡水魚やホタル類など水辺の生きものの生息環境が継続的に保全されている。
・　アユモドキ、スイゲンゼニタナゴ、ナゴヤダルマガエル、ホタル、オオタカ、サシバなど、豊かな生物多様性の指標となる生物について、保全活動の一環として継続的な調査がなされ、その情報が市民に共有されている。

・ 定点調査やローリング調査が継続的に実施され、生物情報が蓄積され、その情報が市民に共有されている。
・ 多様な農業形態が展開されることで新たな農業従事者が増え、後継者不足が改善されている。
・ 「自然共生サイト」への登録の進行などにより、良好な自然環境が維持され、市民活動の場にもなっている。
・ 鳥獣被害対策が広域で図られ、被害が減少している。
・ 多様な地形や自然条件を活かした特色ある農業が継続性をもって営まれている。
・ 里山の豊かな自然や農産物をいかした農業体験、生産地のオーナー制度等の仕組みの導入により、関係人口の増加や新たな地域づくりがなされている。

将来像：緑の連続性が高く、里山ならではの良好な環境が維持され、岡山市の生物多様性のコアとなるエリアになっている

※犬島、及び児島半島の丘陵地、南部低地の孤立丘陵、市域南東部の丘陵地（豊地区や瀬戸地区、大宮地区等）に関する考え方は、基本的に本項に沿うものとする。

② 低地・干拓地

＜具体的なイメージ＞

・ 市街地に近い旭川、百間川の水辺、倉安川、祇園用水などの水辺空間が良好な状態で維持されている。
・ 高島地域で保全されてきたホタルの生息地が継続して保全され、ホタルの生息も確認されている。
・ アユモドキやホタルについて、保全活動の一環として継続的な調査がなされている。
・ 定点調査やローリング調査が継続的に実施され、生物情報が蓄積され、その情報が市民に共有されている。
・ 児島湖や阿部池のヨシ原や開放水面の環境が維持され、カモ類やサギ類等の水鳥の良好な生息地としての機能が維持継続されている。
・ 残存する藻場や高島干潟、砂浜、塩性湿地等について、継続管理に向けた調査が進み、情報が共有されるとともに、場の保全が図られている。
・ 東区の臨港グリーンアベニューや、浦安緑道、妹尾緑道、十一番川緑地などの緑道・公園の保全が継続され、市民の憩いの場としてだけではなく、活動の場として新たな利用も展開されている。
・ 干拓地を中心に広がる農地では、継続して米作を中心とした多様な農業生産が行われているほか、遊休農地の有効活用が進み、ぶどう、桃、なし、いちごなどの果樹栽培をはじめとした高付加価値型農業が発展している。
・ 児島湾では、水質改善が継続的に図られ、改善が進行している。
・ 児島半島地域や灘崎地域におけるイノシシ等による鳥獣被害への対策が図られ、農作物被害が生じなくなっている。

将来像：豊かな海が再生し、河川や水路、水田による水辺のネットワークが維持・強化され、豊かな水辺と農業を育むエリアとなっている

③ 市街地

＜具体的なイメージ＞

・ 旭川の水辺や西川緑道公園・枝川緑道公園の保全と利用環境の新たな創出が図られ、場所によってはホタルが生育する良好な環境が創出されている。
・ 自治会組織や NPO、企業（事業者）、大学などの連携と岡山市のサポートにより、多様なコミュ

ニティづくり・地域づくりが進んでいる。特に、学生など若者層の新しい価値観やアイデア、力をいかした地域づくりが進んでいる。

- 企業（事業者）による生物多様性保全の取組みが進んでいる。
- 環境保全の取組を発表したり、情報交換を行う場が設けられている。
- 生物多様性や自然環境に係る情報の拠点が（オンライン上に、あるいは実際の場として）整備され、誰もが利用できるものとなっている。

将来像：周辺の緑と水辺をつなぐ小さな拠点が様々な主体により作られ、市民が身近な自然で季節を感じられるエリアとなっている

◆私たちの姿の将来像　※人のあり方の状態

<具体的なイメージ>

- 岡山市の SNS による情報発信の活用が進み、環境保全活動が参加しやすい形で提供され、人と人とをつなぐツールの一つとなり、コミュニティづくりにも貢献している。
- 保全活動や農業活動を行っている場所に市街地の住民が足を運び共に活動を行う機会が提供される仕組みが構築され、自然や農業との関りや継続的な保全活動に関わる市民が増え、自然や農業が市街地市民にとって身近なものとなっている。
- 岡山市が市民活動を表彰する制度が設けられ、市民活動の後押しを図っている。
- 大学と地域の交流が進み、地域づくり活動やコミュニティ活動を活性化などに学生の力が活用される仕組みが構築・運用されている。

将来像：

<市民の状態>

自分の生活と自然とのかかわりを考え、地域で解決する力ができていて、自分のまちを好きになっている

<企業（事業者）の状態>

持続可能な社会づくりのために、生物多様性に配慮した事業活動を行うことが企業（事業者）振興につながることの重要性を理解し、従業員が生物多様性に配慮する事業活動を自分事としてとらえて行動し、やりがいにつながっている

<岡山市（行政）の状態>

人と自然のつながりが深まり、すべての人が岡山市の生物多様性の恵みを認識し行動ができるように、生物多様性の保全と持続可能な利用について計画的に施策を展開し、情報発信と多様な主体の活動と連携をサポートしている

以上